

健康リスク  
(乳がん)

## 看護師の乳がん発生リスク 深夜勤の期間・累積回数、交代勤務別 (Hasen & Stevens,2011を改変)

		オッズ比*	95%信頼区間	
(19 ~ 9 時の間の8時間労働) 午前0時以降を含む 深夜勤を1年以上	期間	日勤+準夜勤	1	-
		1~5年	1.5	0.99-2.5
		5~10年	2.3	1.4-3.5
		10~20年	1.9	1.1-2.8
		20年以上	2.1	1.3-2.2
	累積回数	日勤+準夜勤	1	-
		468回未満	1.6	1.0-2.6
		468~1095回	2.0	1.3-3.0
		1,096回以上	2.2	1.5-3.2
		交代性勤務	日勤+準夜勤	常日勤
732回未満	1.4			0.9-2.2
732回以上	1.0			1.4-2.4
日勤+深夜勤	常日勤		1	-
	732回未満		1.5	0.9-2.4
	732回以上		2.6	1.8-3.8
日勤+準夜勤+深夜勤	常日勤		1	-
	732回未満		1.8	1.2-3.1
	732回以上		1.9	0.7-2.3

※オッズ比：年齢、体重、ホルモン補充療法、初潮年齢、月経の規則性、母親・姉妹の乳がんの有無、授乳期間で調整

◆これはデンマーク看護協会の看護師会員（女性）を対象とした研究結果です。デンマーク看護協会には国内の95%の看護師が入会しています。〈Hansen J, Stevens RG. Case-control study of shift-work and breast cancer risk in Danish nurses: Impact of shift systems. Eur J Cancer. Aug 16. 2011 [Epub ahead of print]〉

◆表は、看護師の勤務による乳がん罹患のリスクを示しています。オッズ比は、ある疾患などの罹患しやすさを2つの群で比較して示す統計学的な尺度を言います。表中の調整オッズ比は年齢等の調整後の値です。この表からは主に以下のようなリスクがあることが読み取れます。

<期間>

○「日勤-準夜勤」を1として比較すると、午前0時以降を含む夜勤の経験期間が長いほどオッズ比が高くなる傾向にあり、20年以上では2.1倍のリスクがありますが、5~10年でも2.3倍のリスクであることを示しています。

<累積回数（午前0時以降を含む夜勤回数）>

○上記同様に、夜勤の累積回数が多くなると「日勤-準夜勤」の2倍以上ものリスクがあることを示しています。

<交代性勤務>

○「日勤-深夜勤(2交代)」は「常日勤」と比較すると、その経験回数が多くなるほどオッズ比は高くなり、732回以上では2.6倍ものリスクになることを示しています。

○また、「日勤-準夜勤-深夜勤(3交代)」は経験回数の多い場合も少ない場合も、「常日勤」と比較し約2倍近くのリスクがありますが、2交代よりリスクが低いことを示しています。

◆これらから、夜勤・交代制勤務をする看護職は乳がん罹患のリスクが高いことがうかがえ、対策としてリスクを軽減する働き方（働かせ方）をすることが必要です。